



明和町役場都市建設課下水道係

課題解決の発想を転換 レトロなエコ除草採用で CO₂抑制効果にもつなげる



明和町

住 所・・・ 邑楽郡明和町新里250番地1

T E L・・・ 0276-84-3111

U R L・・・ <https://www.town.meiwa.gunma.jp/>

代表者・・・ 富塚 基輔

設 立・・・ 2004年4月1日(事業開始日)

従業員・・・ 3名(係内)120名(全庁)

WEBサイト



事業者紹介

下水道は、私たちが使用した後の汚れた水を集め、微生物の力できれいに処理して川や海に戻しています。下水道は、こうした「水の循環」を通して、豊かな自然を守るという役割を担っています。明和町には、南側に利根川、北側に谷田川をはじめとして中小の河川が何本かあります。河川に流れ込む水質を改善し、快適で潤いのある生活環境実現のために明和町公共下水道事業計画を樹立し、公共下水道の整備に着手いたしました。普段は、下水道管渠の築造工事を発注したり、水質浄化センターの維持管理を行っています。令和6年度からは公営企業として、みなさんが快適で暮らしやすい水環境の実現に向けて業務を行っています。

経緯・背景

明和町都市建設課下水道係では、水質浄化センターを町単独で管理運営しております。センターの敷地面積は約1.6haであり、維持管理のために例年複数回の敷地内除草を委託しています。委託にかかる費用は年間40万円～50万円であり、人手不足のため、除草を依頼しても作業に入れないこともありました。また過去には近隣住民からの苦情も発生しているため、職員で除草もしておりましたが、職員の負担が大きいことや、近年の猛暑により、夏場は除草作業ができない日が発生していました。

明和水質浄化センター敷地内に ヤギによる除草体制を確立 エコな除草活動を継続中

具体的な取組・成果

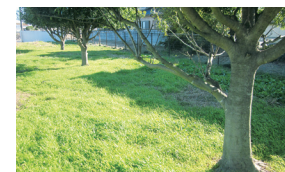
先の経緯・背景より、群馬県の地方公共団体としては初の試みとして、明和町水質浄化センター内でヤギによる除草活動を令和5年度から開始いたしました。目的は、人手不足、人への負担を解消し、持続的で地球環境にも優しい、人とヤギによるハイブリッドな除草体制を確立することです。令和5年度に、浄化センター敷地内にて2ヶ月間の試行実験を開始しました。ヤギ4頭で約2,000m²の除草を計画のうえ、実証実験を開始しました。機械除草に対して、2,000m²をヤギによるエコ除草をした場合のCO₂抑制効果は13.5kgと試算いたしました。ヤギによる除草の成果は下記の通りです。

- ① 人手をかけることなく、猛暑の中でも除草をしてくれました。また、機械が入れない傾斜部や、高い場所の雑草も平地と同じように食べてくれました。
- ② 人が機械による除草をした場合、草刈り機を使用します。その場合、草刈機、刈った草の運搬、草の焼却に燃料を使います。ヤギによる除草は、CO₂を発生させることはありません。食べ終わったフンは水分が少なく、短い期間で分解されて地球に戻ります。また、除草剤の使用もやめることができたため、土壌保全にも繋がります。
- ③ 費用についても、前年まで除草委託をしていた箇所を令和5年度はヤギ除草に切替をすることができ、追加の経費発生を抑制することができました。
- ④ 道路、民地境界にはみ出す草が例年問題となっていました。境界付近にヤギを配置することで、住みやすい住環境の整備に寄与することができました。

浄化センターでのヤギの活動をより多くの住民に知ってもらうため、明和こども園の園児を招き、命名式(メメエ式)を執り行いました。事前に園児たちに考えてもらった名前を当日発表し、ヤギたちを明和町ヤギ除草隊に任命しました。その後、園児たちには浄化センターに生えている雑草をヤギたちにあげてもらい、ヤギが実際に雑草を食べてくれること、次世代を担う子どもたちへ、地球環境を守る大切さについて説明をいたしました。そのほか、お祭りへの参加等、住民とのふれあいの機会を設けることで、ヤギの除草活動を通じて、町と住民が楽しみながら、持続可能な社会を形成できるよう取組をいたしました。



Before



After

昨年度の実証実験を経て、ヤギ除草の効果を確認できたため、令和6年度からは、6月から11月までの半年間に渡り、ヤギにより除草活動を継続しております。昨年の反省を踏まえて、よりヤギが快適に暮らし、職員の世話も減らした運用に取り組んでいます。また、今年度はこども園など浄化センターの外における除草活動や、デイサービスセンターでのアニマルセラピー体験、保育施設への出張除草など、住民と楽しみながらSDGsを知ってもらうイベントを実施いたしました。



明和町浄化センターでのヤギ除草は、経済的観点及びその活動内容から、昨年度メディアにも掲載されました。よろしければご確認ください。
・NHK前橋放送局(ほっとぐんま630)
・ケーブルテレビ館林(ぐんまHOTステーション)
・新聞社(上毛新聞社、毎日新聞社、朝日新聞社、読売新聞社、日経新聞社)

当社にとってのSDGsビジョン

本町は平成26年度より第二次明和町環境基本計画を策定することで、持続可能な循環型社会、低炭素社会を目指し、町、町民、事業者が力を合わせ、環境保全活動に取り組んできました。事業活動を通して、率先して地球環境保全に取り組むことで、「SDGs」17項目の目標達成に取り組みます。

今後の展望と求めるパートナー像

大都市への人口一極集中や少子化による過疎化、公共機関の衰退は、日本の地方が抱える共通の問題です。自分たちの町を、子どもが住みたいと思える持続可能な社会にしていこうことを目標に、地域の人たちと協力し、住みやすい町づくりに向けて、事業を進めてまいります。